一月五雲会

令和元年一月十八日（土）
開演 十二時（正午）
開場 十一時
於 宝生能楽堂

12:00

春日竜神

シテ 小倉健太郎

ワキ 大日方 寛
ワキツレ 高井松男
〃 小林克都
問 高澤祐介

後見 宝生和英
和久荘太郎

地謡 今井泰行
金野良大
佐野玄宜
水上優
藤井雅之
野月聡
澤田宏司

大鼓 亀井洋佑
小鼓 清水和音
太鼓 徳田宗久
笛 杉信太朗

13:10

引括り

三宅近成

前田晃一

〈休憩十五分〉

13:35

東北

シテ 當山淳司

ワキ 則久英志
ワキツレ 梅村昌功
〃 御厨誠吾
問 三宅右矩

後見 佐野由於
高橋亘

地謡 辰巳和磨
川瀬隆士
辰巳大二郎
内藤飛能
渡邊茂人
朝倉俊樹
山内崇生
高橋憲正

大鼓 原岡一之
小鼓 鳥山直也
笛 成田寛人

15:20

鍾馗

シテ 藪克徳

ワキ 村瀬提
問 金田弘明

後見 今井泰行
亀井雄二

地謡 田崎甫
金森隆晋
佐野弘宜
東川尚史
小倉伸二郎
辰巳満次郎
大友順
小林晋也

大鼓 柿原孝則
小鼓 船戸昭弘
太鼓 大川典良
笛 熊本俊太郎

〈休憩十五分〉

終演予定十六時五分頃

演目の解説

能「春日竜神」（かすがりゅうじん）

梅の尾の明恵上人は唐に渡り仏跡を尋ねる前に、暇乞いに春日明神にやって来まるす。そこに宮守の老人が現れ、釈迦の在世中であれば霊鷲山でともかく、今では春日のお山こそ霊鷲山であると言い、入唐のお山こそ霊鷲山であると上人を説得し、唐の必要なども奇瑞を見せて、約束してくれるなら、上人が待つていると去って行きまれる。さらに、大地を揺るがして竜神が現れ、上人に入唐渡天を止めるよう請願し、去って行きます。

狂言「引括り」（ひっくくり）

何かと口うるさい女房に嫌気がさした男、離縁状を書いて何でも好きなもの用意をもつていけと言うと、女房はかねてのしきいの袋を亭主にかぶせて、これに恐ろしい気引っぱつてゆきます。げ出てくる「わしのいつよいて女」の好房。狂言の典型です。

能「東北」（とうぼく）

都へ上つて来た旅の僧は東北院の花を眺め、そこの梅の名を和泉式部と聞き、なおも佇んで美しい女性の声を掛け、ここは和泉式部の住い梅の梅は和泉式部だつたところで、そこの梅は和泉式部の愛した「軒端の梅」式部とは名乗つて消え失せまます。

なおも、我こそは和泉式部の霊であると教えます。さらに、和泉式部の夜の夢に美しい宮廷女性の姿とその夜の僧の北院の歌徳院にのの有様となつた和泉式部が現れ、東徳院にて梅を懐かしく思い出し、和の住処の方の丈にて帰讃える舞つて、元の住処の方の丈にて帰讃えて消え失せます。

能「鍾馗」（しょうき）

唐の終南山の麓に住む男が、奏聞のことがあつて都に上る途中、異形の者に呼びとめられます。何事かと尋ねると異形の男は、国土を守り、悪鬼を亡ぼすと誓いを持ち、帝奇政を全うすると言います。不思議に思つたし男が名をいとうげまし、宮中に現れ瑞を欲せよ告げます。と、進士の試験に及第すが名を尋ねる前に自殺し、鍾馗と言ます。

奏聞のあとの試験に及第すが名を尋ねる前に自殺し、鍾馗と言ます。

退治してかつきには本体を現し、鬼を退治して御世を守ること約束して、鬼を退治して御世を守るこは剣を持つて、悪鬼を退治して王道を守護します。

次回予告

二〇二〇年二月十五日（土）
正午 始

弓八幡 東川尚史
胡蝶 金井賢郎
是界 小倉伸二郎

文化庁文化芸術振興費補助金
（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会